



「2020年度 通常総会」を開催しました



6月13日、チェル救事務所にて2020年度通常総会を開催しました。前号でお伝えしました通り、新型コロナウイルス感染防止のため、正会員の皆さまには「書面出席（議決権行使）」をお願いし、会場には、議長・議事録署名人・議事録作成者（理事長並びに理事）のみが参集し、開催としました。

毎年、総会のあとに行う「チェルQデー」もやむなく取りやめ、総会のみを粛々と行いました。

届いた議決票は、いずれも賛成票で、

各議案については、全て承認可決されました。正会員の皆様のご協力に、心より感謝申し上げます。

なお、議決票とともに、数々のメッセージもお寄せいただき、励まされる思いでした。ありがとうございました。今年度は理事の改選はなく、代表及び理事全員が留任します。

コロナ渦での新年度スタートとなりました。ウクライナでも新型コロナウイルスの感染はきわめて深刻になっており、訪問の目途も立ちません。こういうときは焦らず腰を据え、次の展開の助走期間としたいと思います。

先日、3ヵ月ぶりに事務所で運営委員会を行いました。コロナも寄せ付けなさそうな澆刺としたスタッフ達が勢揃い。皆さま、今後ともご支援をどうぞよろしくお願いいたします。（市原）

〒460-0012 名古屋市中区千代田5丁目11-33 STプラザ鶴舞 本館5階B

NPO 法人 チェルノブイリ救援・中部

銀行名：三菱UFJ銀行 高畑支店(店番号297)

口座番号：普通 1682863

口座名義：特定非営利活動法人 チェルノブイリ救援・中部 理事長 池田 光司

郵便振替：00880-7-108610

TEL / Fax：052-228-6813（月・水・金 10:00～17:00）

* 5年前に電話番号が変わっています。お間違いがないようもう一度ご確認ください。

ホームページ：<http://www.chernobyl-chubu-jp.org>

【南相馬便り】(「コロナ禍」の中で…)

(神野 英樹)

★「第19期 放射線量率マップ」配布完了！

今春の「第19期 測定隊」は、1月末から準備を進めていたが、日を追うごとに「コロナ」の雲行きがあやしくなり、ついには県外からの参加希望者に「県境を越えての移動自粛」をお願いしなければならなくなった。そのため、「今回は測定の実施を諦めて、秋まで延期しようか」と思案していた時に、地元の有志から「自分達だけでもいい。時間がかかってもいいからやろう！」…という声があがった。延べ3ヶ月を要し、平日・休日を問わず、また一人作業となることもいとわず、すべてのポイントの測定をやり遂げていただいた。地図は6月末に見事完成。こうなれば、一日も早くマップを配り終えたい。今回は、マップの配布に関しても、地元の方々には広くご協力をいただいた。まず、小林(岳)さんは、「浪江町・双葉町・大熊町・富岡町」を担当、小林(友)さんは「小高区」を担当、私と池田さんは「鹿島区&原町区」…と、役割分担を実施。また、南相馬市役所の「教育委員会」に出向いて、市内の「小中学校(全18ヶ所)」への配布を依頼。また、「生涯学習課」に出向いて「生涯学習センター(9ヶ所)」への配布を依頼。さらには、「南相馬市市民活動サポートセンター」にも出向いて、当センターに加入している約100の市民団体への配布を依頼。7月末までにすべての配布を完了することができた。今回の比較マップは、配布する先々でとても好評であった。皆さんにも、手に取ってじっくりご覧いただきたい「地元のみんなで作った自信作」である。

★「再生協」の「第7期 通常総会」開催！

6月20日(土)に開催を予定していた、「再生協」の「第7期 通常総会」も

また、「コロナ」の影響を受けて、「書面表決」もやむなしか…という心配があった。しかし、1年に1度の「通常総会」であり、是非とも、実際に集まり膝を突き合わせて「実会議」を開こうという合意が得られ、開催が実現した。

「コロナ」の影響もあり販売不振が続く中、「油菜ちゃんの拡販策」「ナタネの転売」「飯館村との連携の在り方」など、問題が山積しており、16時から開催した会議は、およそ3時間に及ぶ白熱した議論を展開することができた。なお、当通常総会において、役員の一部改選(江口喜久男氏が監事を退任、大和田英臣氏が理事を退任し、監事に就任)があり、福島県地方務局に変更登記を提出した。

★「持続化給付金」の申請&給付！

コロナの影響で、業績が悪化した企業(団体)を対象として給付される「持続化給付金」であるが、幸か不幸か「再生協」も十分対象となる「月(売上高が前年対比50%以下に落ち込んだ月)」があり、6月5日に申請を行った。国会でも給付の遅れが問題となっていたが、幸いに、ちょうど2週間後の6月20日に「満額の200万円」が振り込まれた。

★「営業(拡販)チーム」発足！

地元のメンバー(7名)が中心となり、「油菜ちゃん」の拡販を目指して、「営業(拡販)チーム」が発足した。震災から10年目に突入り、「被災地支援」も徐々に風化が進む中、「油菜ちゃん」も、本来の強みである「品質の良さ」を全面にアピールしていくべき…という方針を掲げ、PRの文言も一新して動き始めた。



【ハガキ内PR文の紹介】 福島県南相馬市より、非遺伝子組み換え国産菜種100%。低温圧搾生搾りの自然のままの風味豊かな菜種オイルをお届け致します。東日本大震災後、農地の再生と地域の活性化、未来に向けて思い、考え、始められた菜の花の種まき。菜の花の持つ力と、人の手で、1年を通じて作り上げられていく一瓶に詰まった菜種オイルの風味とそれに関わるすべての人の思いが、今現在から未来に向かってみなさまにお届けできる一瓶である為に、皆様と一緒に進んでいけたら嬉しいです。この一瓶を手にとって頂き、ありがとうございます。

<この秋の「イベント」情報> (開催日時決定!) (神野)

「コロナ」の状況により、中止や延期の可能性はありますが、以下のように日程を決定して、準備を進めています。皆様の手帳にも、書き込んでおいていただければ幸いです。

★「秋の種まき会」&「第2回 環境フォーラム」

*今回は、コロナを考慮して、「種まき会」と「環境フォーラム」を同日開催することにしました。

*開催日時：2020年9月20日(日) 10時～15時

10:00～11:30 …菅浜圃場にて「種まき体験」

11:30～12:00 …太田生涯学習センターに移動

12:00～13:00 …昼食&交流会

13:00～14:00 …環境フォーラム

「油菜のさと」事業 中間報告会 講師：中村真人氏（農研機構）

14:00～15:00 …「バイオガスプラント」を見学（現地解散）

★「第20期 測定隊」(詳しくは、同封されたチラシを参照願います。)

*第41次…10月10日(土) & 10月11日(日) 双葉屋旅館 泊

*第42次…10月17日(土) & 10月18日(日) 松の湯旅館 泊



猫洞マルシェ出店記録 (菅野 愛見)

コロナ禍が少し過ぎ去ったかに思われた7月4日、「とわでざいん商店」(猫洞マルシェを主催してくれている服屋さん)の記念すべき3周年祭と合わせて、今月も猫洞マルシェが開催されました!

できるだけ多くの方に油菜ちゃんを知ってもらおうべく、いつも通りひとりていそいそと出展させていただきました。

もちろん、コロナ感染防止に配慮し、出展者も来場者もみんなマスク着用、店先には手指消毒用アルコールも設置。私自身も、今回はいつも用意している試食を断念。考えるだけの感染対策をしながらも、久しぶりにコロナ禍の日常でお会いできない方々に会えるという高揚も味わいながらの出展となりました。「とわでざいん商店」3周年祭ということもあり、スリランカカレー屋さんやコーヒー屋さん、素材にこだわったお菓子屋さんなどなど、様々こだわりのある出展者があつまりました。

今回は試食が用意できなかったということもあり、この日は“よりたくさんの方に油菜ちゃんの味や良さを知ってもらおう”という出展の趣旨を全うするまでには至らなかったというのが、正直な今回の感想です。この反省をこれからは活かしていくべく、何か策を練っていかねば…。

ですが、中には、私が「どうしたものか…」と頭を抱えて考えながら座っていると、突然「なにこれ!このマヨネーズ! きれいな色! 買うよ!」と、私の商品の説明を聞く前に瓶を手にとって、目を輝かせているお客様との嬉しい出会いもありました。思いもよらない角度から油菜ちゃんの良さを分かってくださる方もいるものだな…、と、私にとっては新しい発見となりました。

今後も、感染防止の観点から試食が用意できないなど、これまでとは違う形式での出展方法が求められます。今回の経験も活かしつつ、試食なしでどうやって商品のおいしさを伝えていくか、模索していく必要があります。この模索を前向きにとらえつつ、本当に微力ではありますが、これからも出店を続けていきたいと思っています。なので、名古屋市本山あたりにお住まいの方(でない方も!)、お時間があれば一度覗いてみてください!

なお、次回の猫洞マルシェは、今後の状況を踏まえてですが、いまのところ10月3日(土)を予定しております。お待ちしております!



<ウクライナ情報>

(山盛)

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、ウクライナの国境が封鎖。ホステージ基金の事務所が入っている州行政の建物が封鎖され、3月18日、公に検疫体制が敷かれたとの情報が入り、ホステージ基金は実質的な活動停止を余儀なくされた。それから2週間を越え、コロナ禍で緊張を高めるウクライナで、別の悲劇が起こった。火災である。キエフ地域とナロジチ地域の汚染地域から始まり、その後チェルノブイリゾーンで新たな火災が発生し、プリピャチ、そして核廃棄物のある場所に広がった。消防士は415人、各種消防車98台が消火活動に参加し、10日間にもわたる消火活動を行い、4月13日の雨で火災はやっと食い止められた。



<放射線量が平常の16倍に…

火災の熱で舞い上がった可能性がある。>

しかし、4月16日、火災は再び始まり、今度はオブルチ地方であった。その日、最大34m/秒の強風が吹き、汚染ゾーンの5つの村が焼失し、野原と森林へ拡大。ベラルーシ国境へと広がった。655人の住民と108台の車、その内125人の消防士と3台の飛行機を含む31台の専用車がこの火災の中心にいた。約48トンの水、特殊な装置を備えた列車も投入され、消防士は消火活動と住民の救助活動を行った。コロナ禍の中、消防士達は、ウクライナ各地から現場に赴き、汚染地での過酷な



<9台の「リュック型の噴霧器」が購入されました>
消火活動に従事した。

これらの状況下、医療現場でも変化があった。火事が頻繁に発生し、消防士の治療にあたる医療スタッフのグループが、現場に出動することが常態化したため、消防士たちの医療センターでは、消防士・職員のより充実した検査を行うため、検査室の拡張等充実を図ることとなった。また、新型コロナウイルス感染拡大に伴っては、検査室で行う採血などの稼働能力を増大することが必要となり、検査室を拡張することとなった。

その他の情報。チェルノブイリからの支援金の一部を州立成人病院のチェルノブイリセクションでの医療機器購入に充てることとした。セクション長は、現在差し迫って必要なものは、心電計という。統計によれば、事故処理作業



<消火活動を行う消防士を守るために
放射能測定器を購入した。>

者達は、軒並み心臓血管系の疾患に苦しんでいるという。



<保育器で使用する保温マット> 州立小児病院未熟児セクションで年間 800 人～900 人が治療を受

もうひとつ。
州立小児病院の未熟児セクションで、医療用保温マットレスが緊急に必要とされているとのこと。ジトーミル州の子どもの4パーセントは自力で体温を維持できな

けている。かつては 25 の保温マットレスがあったが、現在は使用できるものが 15 点しかない。2004 年に購入されたものだが、本来の耐用年数は 5 年で、現在使用中のものも十分に機能していない。ひと月あたり約 30 人の未熟児が保温マットレスを必要としている。未熟児以外の患児にも必要である。母親が患児の親権を放棄し、肌のぬくもりを感じる機会がない場合も、温かさを常時感じることは大事である。栄養の摂取にも良い影響を与える。自力でこのマットを購入できないため、州民に支援を呼び掛けているとのことである。折も折、ホステージ基金の理事会では、静岡サレジオ小学校からの支援金使途について、丁寧な議論を重ねていたが、今回はこの支援金でマットレスを購入し、州立小児病院に入院する子ども達に役立てることとした。

農地再生協の課題 ナタネ油の拡販 & 油菜のさと

(原 富男)

チェル救も参加する南相馬農地再生協議会（再生協）は、原発事故後、南相馬市でナタネによる農地の再生をめざし、ナタネの栽培、ナタネ油「油菜ちゃん」の製造、ドレッシングやバームなどの販売をしてきました。

そして今、再生協にはナタネを中心に据えた「油菜のさと」構想があり、農地再生の地域拠点的な役割を目指しています。放射性物質の除去は、バイオガス装置を経て行われるため、バイオガスに関心のある私も、月一回の「油菜のさと」実行委員会に出席するようになりました。また会議後には、再生協の定例会が開かれるため、そちらにも参加することになりました。

今、再生協には大きく 2 つの課題があります。一つはナタネ油の販売、もう一つはバイオガス装置を含む「油菜のさと」の実現です。製造したナタネ油は、これまで化粧品会社「ラッシュ」さんが大量に買ってくれたのですが、コロナの影響もあり今年は買い上げ減少となり、油の販売は苦境に立たされています。そこで再生協は拡販を計るため、これまでのドレッシングの改良、ハンドクリーム、パンやお菓子製造での「油菜ちゃん」利用などのアイデアを出し合い、再生協の中にチームを作り、取り組みを始めました。また、搾油していないナタネの在庫が残っていることから「ナタネ」自体の販売もすることにしました。

これまで商品は、被災地を応援する方々に支えられてきましたが、事故から 10 年目を迎え、応援に頼るだけでなく、より積極的な販売方法が問われる時期を迎えています。

一方、「油菜のさと」事業は、バイオガス装置の製作に着手したばかりで、「油菜のさと」の土地の選定、広さなどまだ決まっていません。皆さんも、ナタネ油や関連商品の拡販、「油菜のさと」への協力など、再生協のこれらの活動にぜひ協力をお願いします。

私も、月一回の会議に参加するために、長野県から片道 8 時間、車を運転してでかけます。さすがに大変ですが、一つの形ができるまでは通うことにします。

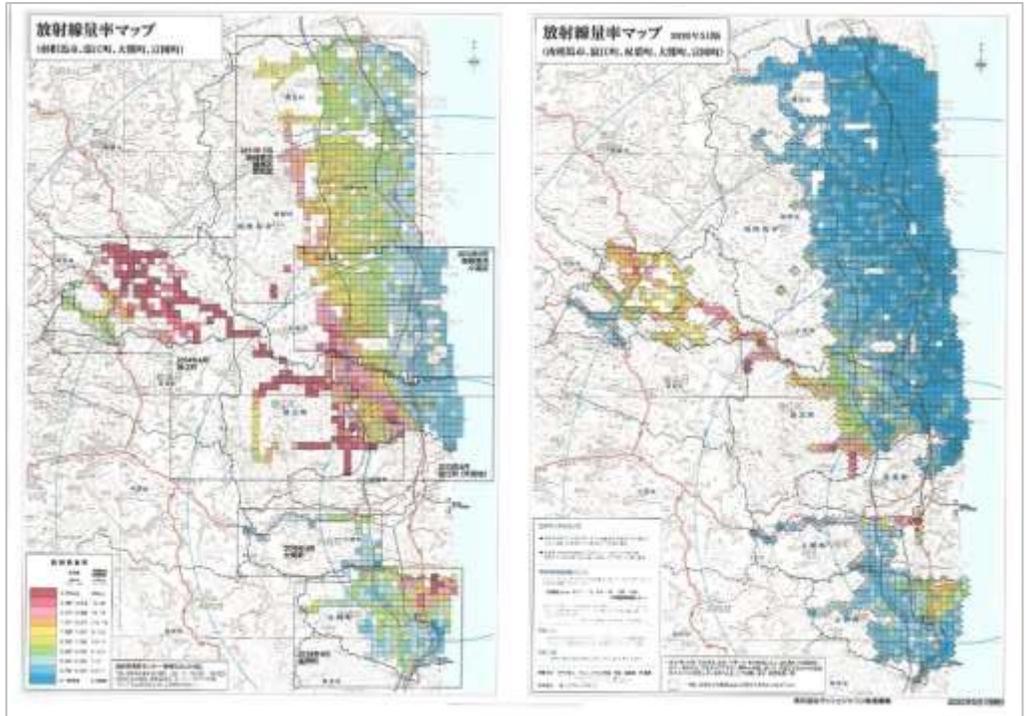
「第 19 期 放射線量率マップ」作成経緯をお伝えします。(神野 美知江)

この春は、測定ボランティア募集を行い、参加者もほぼ揃っていました。その頃、「新型コロナウイルス」の影響で、県境を越えての移動は見合わせて、感染予防に努力しましょうという広報が発信され始めました。「私は注意

してるから大丈夫」「感染するはずがない…」という、何の根拠もない自負だけで、出歩いて良いものだろうか…。参加予定の方々にも心配や不安が募り、急遽、実施に関する話し合いが行われ、今回は測定を見合わせることになりました。

定期的にも実施してきた測定はいったいどうなるんだろう…と、名古屋近郊にいる私たちはもとより、南相馬市で計画を立て、段取りをしていた「とどけ鳥」では、10年間やるという思いで続けてきた、これまでの努力が頓挫してしまう…と、落胆の気持ちでいっぱいでした。昨年秋の台風 19 号による集中豪雨の時は、土砂崩れや通行止めで立入ることができず、断念した地点があったものの、測定は中断せず地図に仕上げました。

そして今回は、南相馬市の皆さんが、仕事の合間や休日を返上して、通常、前後班の 2 回（のべ 4 日）で行う 1,634 地点の測定作業を、15 人（のべ 86 人）で、のべ 43 日間という地道に継続することによって、やり遂げら



れました。

「2020 年 春の空間線量率測定」が、現地の皆さんを中心に実施され、7 月 1 日午後、思いと努力が詰まった放射線量測定マップが仕上がり、名古屋事務所に届けられました（とどけ鳥事務所には、翌日届く）。

今回の「比較マップ」を紹介します。左側の測定区域横の表記に注目してください。私達が空間線量率を初めて測定した日付が入っています。南相馬市の 20^キ圏内は「立入禁止区域」のバリケードがあって、立入りできず測定ができなかったのです。その後、立入禁止区域が縮小され、現在に至ります。

右側の地図は、先に紹介した地道な努力の成果です。まだところどころ灰色の地点がありますが、これは昨秋の集中豪雨の爪痕で、今も通行止めになっているところです。

今回の測定ボランティアの募集に応えてくださった皆さんには、今号のポレーシェと同封してお送りします。また、他の読者の方で、ぜひ努力の成果を見たいと思われる方は、事務所までご連絡ください。

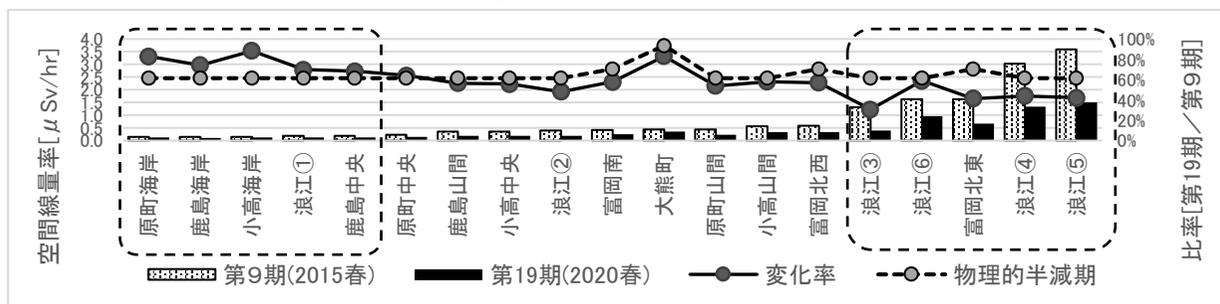
第 19 期 空間線量率測定結果

(池田 光司)

新型コロナウイルスの影響があり、今回の測定は、地元の有志を中心に3月中旬から6月初旬にかけて計43日延べ86名で行われました。測定、ありがとうございました。マップと地域ごとの詳細な分析結果は、チェルノブイリのホームページ

(<http://www.chernobyl-chubu-jp.org/sokutei-map.html>)に掲載されていますので、ぜひご覧ください。ここでは、全体的な傾向と、今回新たに測定した福島第一原発に近い地域のデータから分かったことをご紹介します。下のグラフは、ここ5年間の地域ごとの空間線量率の減少を表しています。棒グラフの左側が第9期(2015年春)、右側が第19期(2019年春)の空間線量率になります。なお、第9期より後に測定を始めた富岡町は第11期(2016年春)、大

熊町は第17期(2018年春)のデータと第19期のデータを比べています。実線の折れ線グラフは、第19期の空間線量率が第9期(富岡第11期、大熊第17期)の空間線量率の何%になったか比率を示しています。点線の折れ線グラフは、同じ期間物理的半減期で減少したとした場合の比率を示しています。物理的半減期で計算すると、第19期の空間線量率は、第9期に対しては61%、第11期に対しては70%、第17期に対しては94%となります。また、浪江町は、①から⑥へと地域が海岸から内陸へと移るようになっていて、空間線量率の最も高い浪江④と浪江⑤は大柿ダムを東西に挟んだ地域になります。



グラフ上の地域は、左から右に向かって第9期の空間線量率の低い方から順番に並んでいます。どの地域も実線の折れ線グラフの比率が100%より小さく、空間線量率が減少していることが分かります。特に、グラフで浪江③から右側にある空間線量率が1 μ Sv/hr以上と高かった地域は、浪江⑥(下津島以西)を除いて空間線量率の減少は物理的半減期より大きく、5年前の値の31%~44%にまで減りました。これらの地域では、ここ5年の間に、雨をはじめとした環境要因による空間線量率の減少があったと考えられます。逆に、グラフで鹿島中央から左側にある空間線量率が0.2 μ Sv/hr未満と低かった地域は、空間線量率の減少は物理的半減期より小さく、5年前の値の68%~88%に止まりました。これらの地域では、空間線量率が自然放射線レベルに近くなってきていて、自然放射線がある中で放射性セシウムの放射線の減少を十分に拾い上げられなくなっていると考えられます。グラフ中央部分の空間線量率が0.2 μ Sv/hr以上1 μ Sv/hr未満だった地域

は、ほぼ物理的半減期と同程度もしくはやや大きな空間線量率の減少があったことが分かります。福島第一原発事故当時、南相馬市の1 μ Sv/hrを超える地域では物理的半減期より大きな減少が観察されました。今回の結果と考え合わせると、空間線量率の高い所では物理的半減期より大きな減少があり、空間線量率が下がるにしたがって物理的半減期に沿って減少するようになり、さらに空間線量率が下がって自然放射線レベルに近付くと放射性セシウムの放射線の減少の検出が難しくなると言えそうです。

今回は、新たに福島第一原発の北に位置する双葉町の海岸地域と、西に位置する大熊町の国道6号沿いの測定を行いました。いずれの地域も原発から3~5kmの近さにありますが、双葉町海岸地域は0.10~0.72 μ Sv/hr、大熊町国道6号沿いは0.60~4.01 μ Sv/hrと、空間線量率に大きな違いが出ました。これだけ原発に近い所でも、放射能汚染は同心円状に広がらなかったことを示し、「放射能汚染は同心円状に広がらない」大切な教訓の一つです。

新型コロナ・パンデミックが始まり半年が過ぎたが、感染拡大はまだ収まらない。7月20日現在の世界の感染者数は1,470万人、死亡者数は611万人でまだ増加中である。新型コロナウイルスの感染率と死亡率は国ごとに大きく違うが、その原因はまだ解明できていない。

新型コロナウイルス感染の仕組み

新型コロナウイルス（以下COV-2）の感染は、最初にウイルス表面の突起S蛋白質が相手の細胞表面に結合する事から始まる。S蛋白質の形が王冠（コロナ）に似ている事から、コロナウイルスの名が付いた。17年前に中国や韓国などで起こったSARSのウイルスも、同じS蛋白質を持つ。S蛋白質が結合する相手細胞の表面には、受容体R蛋白質がある。COV-2の場合、受容体はACE2（アンジオテンシン変換酵素2）という蛋白質分解酵素である。

ACE2は細胞膜に存在し、血管表面細胞でナトリウム・イオンを吸収し血圧調整等にかかわったり、腸内では必須アミノ酸の吸収に関与して腸内細菌のバランスに作用したりと、複雑な働きを持つ。コロナウイルスは、この細胞表面のACE2を標的として感染する。受容体に結合後、ウイルスは複雑な反応を経て細胞の中に入り増殖する。現在、世界中で開発中のワクチンの多くは、ゲノム編集で作ったS蛋白質の遺伝子を体に注入し、体内でS蛋白質を合成して、これに対する抗体を作らせるのが目的である。

ACE2は発酵食品で阻害される

最近、フランスの研究チームが、国別で大きく異なるCOV-2による死亡率の比較研究から、違いの原因が食生活にあるらしい、という論文を発表した。彼らは、韓国やドイツの死亡率が小さい事に注目した。韓国ではキムチ、ドイツではザワークラウトという発酵食品をよく食べる。発酵したキャベツや白菜には、ACE2を抑制する成分がある。スイス国内ではドイツ系住民の多い地域に比べて、ザワークラウトを食べる習慣のないイタリアやスペイン系住民の多い地域では死亡率が高

く、発酵食品がACE2に関与してコロナの感染を予防したのではないかと結論した。実は、新型コロナの流行が始まった今年1月に、中国の研究者が新型コロナの感染を天然食品が予防するという研究をしていた。彼らは、SARSのS蛋白質がCOV-2と同じことから、中国のハーブに含まれるいくつかの成分が、ACE2とウイルスのS蛋白質の結合を妨害し感染を防ぐという研究をして、論文を発表した。その中の一つに「ニコチアナミン」という成分がある。ニコチアナミンは大豆に含まれる成分で、ACE2を阻害するという論文を日本の研究者、高橋沙織氏が既に2015年に書いている。高橋氏は、味噌作りの際に発酵が進むにつれてニコチアナミン濃度が増え、ACE2の阻害効果が増大するという論文を書いた。これは、高血圧の抑制物質に関する研究で新型コロナとは無関係だが、偶然にも結論は同じである。

ベトナムの研究者らによる、ニンニク油の成分がACE2とCOV-2のS蛋白質の結合を阻害し、同時にCOV-2ウイルスが感染後に細胞内で最初に起こす、主タンパク質分解酵素（Main Pro）の反応を阻害して、結果的にコロナ感染を予防するという研究が、3月にアメリカ化学会機関誌に掲載された。また、アロエやルバーブに含まれるエモジンという成分が、ACE2をブロックしCoV-2感染を抑制する可能性があるという論文を、インドや台湾の研究者らが発表している。ワクチンや薬剤の開発も必要だが、これらの研究は、一人一人の日常生活レベルでも、新型コロナ感染に対処可能な事があるのを示唆している。バランスの良い食生活は免疫力も強化する。（2020年7月21日 河田）

菜種刈りに参加して

(岐阜県 吉田 重和)

昨年、知人の藤田さんより「菜種の刈り取りでコンバインの運転がで



きる人を捜している」との連絡がありました。

農業をしている私は、『被災地に行ってみよう…』との思いもあり、菜種の刈り取りに行きました。今年は新型コロナウイルスの関係もあり、どうするか悩みましたが、「復興支援は必要だ」と考えて、今年も参加することを決めました。

6月26日 午後3時に自宅を出発し、名神養老から高速に乗り、東名・中央道を走り、岡谷で一度高速を降り、佐久南から圏央道、筑波を経由しながら平均速度 80 キロで走り続けました。

27日朝5時に南相馬市 常磐太田駅に到着しました。駅の様子昨年と違う所は、駅のトイレが新しく綺麗になっていたことです。朝7時半に杉内さんの事務所を尋ねました。土産は、私が発芽させた落花生の苗と、自宅にあるイワヒバを差し上げました。杉内さんの庭にあるイワヒバを欲しいとお願いしていたので、快く苗を挿し木していただく事ができました。

菜種の刈り取りは、梅雨の時期でもあるので、菜種の殻が十分乾燥していないとコンバインの中で割れずに排出されてしまいます。海の近くでは、風が湿度を持っているので、晴天でも刈り取りをするかどうかの判断が求められるそうです。

今回、3日間しか刈り取りをする事ができ

ませんでした。菜種の刈り取り後の耕起と、肥料撒きを体験する事ができました。面積当たりの散布キロの感覚が不安でしたが、Wさんの指導で行う事ができました。そして、収穫・乾燥後の選別を大豆選別器で行う事を、経験させていただきました。草の種が混じらないようにするための、最終選別と袋詰めです。

今回の訪問で感じた事は、次世代の後継者問題です。昨年指導いただいたWさんが、家庭の都合で京都に生活拠点を移された事。そして、昨年一緒に草刈をした若者2人が、転職されていた事。近くの元国鉄職員のOさん、ひげのおじさんが手伝いに見えているが、若者はMさんだけです。

私の地元でも専業農家と営農組合があり、専業農家の方は高齢であり、営農組合も高齢化が進み、トラクターを側溝に脱輪させたりと、農業機械の運転手が不足しているのが現状です。そうした中で、若者に夢を与える施策が「菜の花プロジェクト」です。バイオマスの実験も計画されており、杉内さんの自宅内にある作業場の移転先も交渉中との事で、夢の実現に向けて確実に動いています。

どうしたら若者を採用して、定着させることができるのか、課題だと思います。



<中央(左から4人目)が吉田重和さん>

2019年度 活動計算書

自 2019年 4月 1日 至 2020年 3月 31日

特定非営利活動法人チェルノブイリ救援・中部(特定非営利活動に係る事業会計)

単位：円

科目		金額	
【経常収益】			
1. 受取会費	正会員受取会費	132,000	
	賛助会員受取会費	453,000	585,000
2. 受取寄付金	ミルクキャンペーン	341,500	
	被災者団体支援	125,400	
	医療機関支援事業	79,600	
	福島原発被災支援	1,681,000	
	一般寄付	5,389,102	7,616,602
3. 受取助成金	ラジオチャリティの助成	3,000,000	3,000,000
4. 事業収益	福島支援事業	799,218	
	イベント関連事業	77,250	
	啓発事業	21,830	898,298
5. その他の収益	受取利息	13	
	為替差益	92	
	雑収益	10,635	10,740
経常収益 計			12,110,640
【経常費用】			
1. 事業費			
(1)人件費	給料手当・日当	477,000	
	人件費 計	477,000	
(2)その他経費	業務委託費	1,949,921	
	支援金	939,299	
	印刷製本費	878,030	
	旅費交通費	2,751,700	
	通信費	55,038	
	荷造運搬	331,389	
	消耗品費	87,208	
	修繕費	30,370	
	賃借料	9,200	
	売上原価	235,146	
	諸会費	30,000	
	支払手数料	35,846	
	その他経費 計	7,333,147	
事業費 計			7,810,147
2. 管理費			
(1)人件費	給料手当	1,582,720	
	法定福利費	5,435	
	人件費 計	1,588,155	
(2)その他経費	通信費	161,915	
	荷造運賃	990	
	水道光熱費	88,341	
	旅費交通費	11,880	
	消耗品費	156,489	
	印刷製本費	68,614	
	地代家賃	786,000	
	保険料	7,730	
	租税公課	1,200	
	諸会費	30,000	
	支払手数料	82,486	
	雑費	7,588	
	為替差損	967	
	その他経費 計	1,404,200	
管理費 計			2,992,355
経常費用 計			10,802,502
当期正味財産増減額			1,308,138
前期繰越正味財産額			1,512,161
次期繰越正味財産額			2,820,299

※その他の事業は実施していません。

2019年度 計算書類の注記

1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会)による。

- (1) 固定資産の減価償却の方法
有形固定資産は、法人税法の規定に基づいて定率法で償却をする。
- (2) 消費税等の会計処理
消費税等の会計処理は、税込経理方式による。

2. 事業費の内訳

事業費の区分は以下の通りです。

科目	医療機関支援事業	粉ミルク支援事業	被災者団体支援事業	クリスマスカード事業	業務委託事業	通信誌発行事業	イベント関連事業	派遣事業	福島原発被災支援事業	啓発事業
【経常収益】										
受取寄付金	79,600	341,500	125,400						181,000	
受取助成金									3,000,000	
事業収益							77,250		799,218	21,830
その他の収益							10,635			
経常収益 計	79,600	341,500	125,400	0	0	0	87,885	0	3,980,218	21,830
【事業費】										
(1)人件費										
給料手当・日当									477,000	
人件費計	0	0	0	0	0	0	0	0	477,000	0
(2)その他経費										
業務委託費					449,921				1,500,000	
支援金		304,999	600,000				34,300			
印刷製本費		1,045		1,045		233,000	6,620		636,320	
諸謝金										
会議費										
旅費交通費				6,000			300		2,745,400	
通信費				8,939		33,616	8,417		4,066	
荷造運搬費				78,410		244,695	756		6,578	950
消耗品費				6,622			657		79,929	
修繕費									30,370	
地代家賃										
貸借料				8,000			1,200			
売上原価									235,146	
保険料										
諸会費									30,000	
支払手数料		16,745	3,040	54			845		15,162	
雑費										
為替差損										
その他経費計	0	322,789	603,040	109,070	449,921	511,311	53,095	0	5,282,971	950
事業費計	0	322,789	603,040	109,070	449,921	511,311	53,095	0	5,759,971	950
経常収益-事業費	79,600	18,711	△ 477,640	△ 109,070	△ 449,921	△ 511,311	34,790	0	△ 1,779,753	20,880

第21期(2019年4月1日～2020年3月31日)の会計報告を監査した結果、異常なく正当に処理されていることを証明します。

2020年 5月 23日 監査人 神野美知江 ㊞

去る6月13日、コロナの影響で異例の開催となりましたが、総会において2019年度決算が承認されました。今年は、コロナの影響で在宅勤務しながらの決算だったため、なかなか思うようにはかどらず、事務局スタッフ間の連携は難しい面もありましたが、何とか総会を終えることができました。今年の1月から、郵便振替口座の入金照会が、郵送による通知からオンラインに切り替わりました。有料化に伴う措置だったのですが、今となってはオンラインにしておいて大正解でした。さて、今年度は約1300万円の予算を組んでおり、そのうち寄付金が740万円、会費が67.2万円でおおよそ800万円が寄付会費での収入目標です。どうか皆様の力を貸してください！ お知り合いの方などポレーシェを読みたい方がいらっしゃったらご紹介ください。皆様のご支援、ご協力をよろしく申し上げます。(会計係 兼松真梨子)

事務局便り

コロナに関する都のモニタリング会議は、現状を「体制強化が必要」との段階に据置いたが、これをもって内閣官房長官は、「都の医療は逼迫していない」と発言し、「これは誤りである」と、杏林大の山口芳裕教授は真っ向から反論した。「段階評価」だとしてはいるが、そこでもちこたえられているのは、医療関係者・都職員・保健所・ホテル等、様々な人々の努力や労力によってであり、その事に対する想像力をもっていない人に、最悪でないから「大丈夫。遊びましょう。旅に行きましょう」という根拠に使われてはたまらないとの、現場を知る人の憤りであった。…そういえば、コロナ感染が始まった当初、世間では、「大したことはない」「否、未知のものだから慎重にならなければならない」「大変な事になる」等、意見は様々であった。さて、そして、今である。これからのために、現状を正しく把握し、想像力をもたなければいけないのだと学ぶ。(山盛)

お知らせ「フレンドマーケット」に出店準備中!

ふくしま県全域が、「モンベルフレンドエリア」という提携地域に登録されているご縁で、先日、新規出店のお誘いがあり、手続きを始めました。



「モンベル」は、1995年の阪神淡路大震災以後に「アウトドア義援隊」を組織し、東日本大震災・熊本大震災・新型コロナウイルス・集中豪雨被害など、自然災害に合わせた方への支援活動を行っています。お話をいただいてから、申請書類は再生協の皆さんが中心になり、「油菜ちゃん」や「搾油所」の写真を整え、サンプル商品も大阪本社宛に送付しました。そして、「出店に向け、準備を進めてまいります」というお返事をいただきました。皆さん、応援してくださいね。(美)

編集後記

- ☆今やエコバッグは必須アイテム。生鮮食品用、それ以外の食品用、衣料品・雑貨用と使い分け。そして通勤バッグにはフリーのかわいいめエコバッグを常備。無駄ではない、エコなのだ!(佳)
- ☆4連休はオリンピック開会式の予定だったが、COVIDのために延期された。今、自粛生活を満喫して終了。そして9月の終わりに「10月の祝日は?」と気づく。旗日、ひとつも無し!(美)
- ☆世界中の人々が、「コロナ」の恐怖に囚われ「思考停止」している。この「新型コロナウイルス騒動」は、「人工的に仕掛けられたパンデミック(爆発的感染)」である可能性が高い。この「パンデミック」は、自分達の支配力を強化するため、カオス(大混乱)を引き起こそうと、既に10年以上も前から着々と計画されていたようだ。2012年に開催された「ロンドンオリンピック」の開会式の映像を見れば、既に「コロナウイルスの恐怖」が演出されていた。最近の情報に注目すれば、【タンザニアの大統領が「PCR検査詐欺(果物のパパイヤや山羊の検体がコロナ陽性)」を告発】【マダガスカルの大統領が「治療薬に少量の毒物を入れるよう、WHOが2千万ドルの提供を持ち掛けてきた」と暴露】【ガーナの大統領が「ロックフェラー財団の内部文書(ウイルスを世界的に蔓延させるなどの計画書)」を入手し、その計画を暴露】【トルコの国営放送が「小児虐待・虐殺 犯罪ネットワーク」の存在を暴露】…等、どれもが、現在の世界大混乱(カオス)の元凶(真相究明の出発点)を知る上で、貴重な情報である。(J)

〒456-0022 名古屋市熱田区波寄町 20-14

E印刷「**エーゾラント**」

TEL・FAX (052) 871-9473